平成 27 年度「インクルーシブ教育システム構築モデル事業(学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解(心のバリアフリー)の推進)」
成果報告書

団体名	滋賀県教育委員会

Ⅰ　概要

１　事業の概要

県立特別支援学校 9 校をモデル校に指定し、各々の学校で実施している地域の小・中学校や高等学校との学校間での交流及び共同学習において、障害者スポーツ等を取り入れた活動を設定した。この取組を通じて、障害のある子供と障害のない子供が共に同じ障害者スポーツ等を体験し、身体を動かすことの喜びや、同じ目的に向かって協力する一体感などを味わうことを目指した。

本事業で取り上げる障害者スポーツは、「ボッチャ」「フライングディスク」「ゴールボール」「フロアバレー」「ユニバーサルホッケー」「卓球バレー」などの種目から、参加する児童生徒の個々の障害特性等を考慮して実施種目を選択することとした。

さらに、障害者スポーツの専門家等を講師として招き、障害者スポーツのルール説明や練習方法等の指導を受ける機会を設けたり、パラリンピック日本代表選手等の障害者アスリートによる実演や体験談等を聞いたりすることで、障害者スポーツの楽しさを体感するとともに、障害に対する理解を深める契機とした。

２　事業の成果

ゴールボールやボッチャといった、普段見る機会の少ない障害者スポーツに取り組む際は、パラリンピック元日本代表選手や障害者スポーツ専門家を講師として招き、実演や実技指導等を交えながら、ルール説明や競技の概要等の解説を受けた。このことにより、言葉や文字だけの説明に終わらず、視覚からの情報も得られたことから、初めて体験する障害者スポーツのルールが、短時間に分かりやすく理解できた。また実技指導においては、模範実技も交えた実践的な説明を受けたことから、初めて体験する障害者スポーツにもすぐに馴染み、競技に取り組むことができた。

また、競技を実施する際には、個々の児童生徒の障害等を考慮して、ルールを簡便化するなど適宜変更し、ルールの理解に困難さのある児童生徒も競技を楽しめるよう工夫することで、障害のある子もない子も共に同じスポーツを体験する取組ができた。

さらに肢体不自由のある児童生徒に対して、例えば物を投げることに困難さを抱える児童生徒がフライングディスクに取り組む際には、ゴムの張力を利用してディスクを飛ばすなど、補助具を使って競技を行い、参加する誰もが楽しめるスポーツ活動となった。

３　事業の課題とその解決のために必要な取組

本事業で、特別支援学校の児童生徒と小・中・高等学校の児童生徒が、共に同じ障害者スポーツに取り組み、一緒に体を動かす喜びや同じ目的に向かって協力する一体感を味わうことができ、障害のある児童生徒も障害のない児童生徒も共に学び共に成長する契機となったと考える。

しかしながら、障害者に対する理解を深める取組が、児童生徒と教員のみに限定され、広く県民に周知するまでには至っていなかった。このことから、次年度においては、障害者スポーツ大会や障害者スポーツカーニバル等を実施し、保護者や地域住民等の参加を促し、障害者理解の推進を図りたい。また、事業実施後に事例研究会等を開催し、事業計画や成果の内容と課題を協議し、今後の交流及び共同学習を行う上で必要となる要素等を整理し、実践事例集などにより県内に発信するとともに、通常学級や支援学級でも活用できる指導や支援を明らかにしていきたい。

また、県教育委員会発行のリーフレットや広報紙を通じて、事業案内を周知し、広く県民に活動の啓発を行っていきたい。